



2012-13 年度 R I のテーマ「奉仕を通じて平和を」
 R I 会長 田中作次 (Peace Through Service)
 八戸南ロータリークラブ会報
 例会日：毎週木曜日 12：30 例会場：八戸パークホテル



ガバナー 松本 康子 会長 熊谷 道雄 幹事 伊藤 斉 会報委員長 山子 則男
 ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：hsrclub@hi-net.ne.jp
 RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org>

第 1826 回例会記録 歴代会長卓話担当例会
 2013 年 3 月 21 日 (木) 点鐘 18：30

会長要件 熊谷会長



今年例会プログラムを組むに当たり、夜例会があったほうが楽しいとの意見もありましたが、夜例会をやると参加者が少ないようで・・・一部の方の声だったかと反省し今日を迎えています。

17日にPETSがありました。次年度の小原会長、清川幹事ご苦労様でした。1年を迎えるための勉強会で朝から夜までありました。県内各地からの次年度会長、幹事が集まりへロへロと言う感じで疲れていました。1年間のための勉強、相当の量があります。

今日は歴代会長卓話。歴代と言っても直前会長の卓話ですが楽しみにしています。

幹事報告 伊藤幹事

* 特別報告事項はありません。乾杯のお酒は蕪嶋神社のお神酒です。

出席報告 清川出席副委員長

今日は特別例会。楽しい一時を

ニコニコ・ボックス 平光親睦委員

熊谷会長：三川直前会長、今日の卓話よろしくお願ひします。

伊藤幹事：三川直前会長、今日はよろしくお願ひし

ます。

平光会員：三川直前会長、よろしくお願ひします。

榊会員：前会長、今日はよろしくお願ひします。(お久しぶりです)

結婚記念日：法官会員

歴代会長卓話

三川博直前会長：

久しぶりに話しをさせていただきます。何をはなしするか考えて、ロータリーの話は会長を辞めたので中々しんどいので、専門の話しをしようと思い、レジュメをお渡ししました。聞くということです。つれづれこのような話題となっているベストセラーの「聞く力」(阿川佐和子)、120万部うれて、130万部を突破したとも言われます。青森県の人口ぐらいの数で、すごい話です。インパクトがあり時代にあっています。聞くことは私の専門分野ですので、今更とたかを食っていました。(今日)話をする為に本を買って読んでみたら、良かったです。専門用語は無く平易に書いていますが、専門と同じレベルのことが書いてありました。やはり売れるそれだけの理由があります。優しい言葉、簡単に具体的で精神科レベルの事が書いてあり、為になる本でした。今日はこれをヒントに話しをしてみたいと思います。



私達 60代は歴史を見てきて、昔はもう少し人とのつながりが密であり、話しを聞いてくれる人がたくさんいたと思います。医療についてもそうです。耳を貸し、病歴をしっかり聞き、患者と医者との人間関係がありました。学生時代も耳を傾けるのが大事と教わりましたが、医学が進歩するとその必要が無く、機械で検査した方が簡単で、話しを聴く事が重大でなくなり、関係が危くなりこじれて、信頼感が危なくなっています。

会社でもそうです。誘っても来ない人、コミュニケーションが取れない人、人と人との干渉が少なく、耳を傾ける事が少なくなりました。聞くことを体験し、勉強して反省する事は大事です。そんな事からこの本は売れたのだと思います。人間同士の係わりを感じる人がいて、そういう事が背景にあり本が必要とされた、そんな背景を感じます。

本の内容は週間文春のこの人にあいたいとのインタビュー記事が元です。週1回の記事の為に2時間会って話しを阿川さんは聞くそうです。週2、3回人と会う時もあるそうで、すごい動力を使い書いていると思います。野球の松井選手、貴乃花、野村監督、デーモン閣下、北野たけし等すごい人のインタビューと裏話も載っています。その辺も面白いです。聞く事は現代人にとって大切な事です。

実はよろず相談について感じる事があります。来年で20回目、素晴らしい奉仕活動ですが、私がハラハラしているのは、色々な状況、問題が発生するのではないかと思う時もあります。しかし皆さんは経験豊富で安心はしていますが…。

場面設定(密室度、向き合い方)、プライバシーの為に敷居が作ってあります。完全密室は危険です。人は我がままになり易いし、自我がでます。向き合い方も真正面か90度で違ってきます。

単独か複数か?で対応が違います。

相談者の常識度。普通の理性かどうかでも対応が違ってきます。

ルール(課題以外の案件、過度の期待、個人的関係)。ルールは作ってはいないが、常識を持っていますので、それぞれのルールを持って行けば良いのではと思います。

受ける側の問題(先入観、対等、共感、心理的距離、限界)。成果を上げようとか思い上がった気持ちを持つことを反省。何でもかなえようとするると落とし穴に落ちいます。専門外には口出ししないとか、相談者と上下関係を持たないとか、受ける側の心構えもあるのではと思います。

目的は問題解決か。必ず解決が目的ではないのではないか。とりあえず相談内容を聞いてあげる、どうしたら解決できるか?結論ばかりではないと思います。例えば治療をしてくれないと言う不満を丁寧に聞いてあげたら、話して気が晴れたと帰られた方があります。

このようによろず相談にはいくつかの問題をはらんでいると思っています。

精神対話士が出てきました。対話で心をケアするスペシャリストです。心理療法士やカウンセラーは結果を出しますが、精神対話士は結果を求めていま

せん。傾聴と共感だけを通して悩みや不適應を解決して行く専門家です。全国で1,000人います。心の相談、心のケアが求められ必要と言う事で生まれてきたのです。

最後に結びとして、養老孟司氏の言葉、「心の時代」に必要なのは人の話しを聴ける能力。「教養」とは人の気持ちがわかるということ。なるほどと思います。そして「」の中をロータリアンに置き換えると良いと思います。

「ロータリアンに必要なのは人の話しを聴ける能力。ロータリアンとは人の気持ちがわかるということ」



【喫煙
三羽鳥】





【中締めの
村上副会長】

